

シクロケム NZ産とブラジル産を供給 産総研との研究成果でアピール

シクロケム(神戸市中央区)は、機能性成分のコーヒール酸フェネチルエステル(CAPE)を高含有するニュージールランド産ド産プロポリス、主要成分としてアルテピリンCを含むブラジル産グリーンプロポリスを供給して

いる。機能性データに基づき提案し、新規顧客開拓を推進している。

ニュージールランド産は、CAPEに神経線維腫症を改善する可能性が見出されたことから、同素材に着目し、産業技術総合研究所(AIST)と共同研究をスタート。その後CAPEに認知機能改善などの働きを確認。この結果を受けシクロケムは、CAPEで規格化した原材料「NZC APE30+」を上市した。同素材はプロポリスエキス10倍中に、CAP

Eを30ミッド以上含むもの。

また、アシクロロデキストリン(CD)で包接することにより、CAPEの溶解性や安定性が向上して機能性が高まることから、アCD包接プロポリスエキス末「NZプロポリスCD」もラインナップしている。

シクロケムでは、ニュージールランド産とブラジル産の両素材で機能性研究にも注力している。AISTとの共同研究で、2つのプロポリスとも抗腫瘍、抗ストレス活性を示したと発表し

蜂社をはじめ、超臨界抽出プロポリスを供給すると、これら機能が向上することも確かめた。この研究論文は学術誌「ニュートリエンツ」「モレキユーズ」に掲載されている。

また、米国で昨年9月に開催されたリサーチシンポジウムでは、AISTがCAPE、アルテピリンCともにCOVID-19に対し、抗ウイルス活性を示したと発表し

機能などを持つ可能性をた。